

翻訳にあたってのヒント

その 34

「叱る・叱られた」を英語で何と言うか？

この日本語に対して、学校で教わった英語から真っ先に思い浮かぶのは "scold" という動詞であろうが、大人同士の世界ではこれはそぐわない。何故ならば、「scold (叱る・説教する・小言をいう・灸を据える)」という動詞は、主に親が小さな子供を叱るときに使われる動詞だそうだからである。

そこで今回は、大人を叱る・大人が叱られる場合の言い方のパターンのいくつかをご紹介します。

まず、「ボス (社長・上司・部長・課長・係長・監督・親方) に叱られたよ」という日本語を英語で表現してみると、次のようになる。

× (悪い例) My boss scolded me.

○ (良い例) My boss bawled me out (told me off).

以下は、他の英語 (bawl out を含めた) での表現法であるが、このうち、"bawl out" (厳しく叱る・叱られた場合) や "tell off" (叱りつける・叱りつけられた場合) がよく使われる言い方のようである。

▼ I'm going to tell that guy off. あの男を叱りつけてやろう。(口語体、tell off 人, tell 人 off = 人を叱りつける、ガミガミしかる、非難する、説教する、とっちめる)

▼ He bawled me out. しかりとばされた。(bawl out = どなりちらす、(大声で) 叫ぶ、しかりつける、大目玉を食らわす、大声で非難する； be bawled out = お目玉をちょうだいする)

▼ He chewed me out. がみがみどなられた。(chew out = しかり飛ばす、しかりつける、きつく [厳しく] しかる [非難する]、ガミガミ言う、怒鳴りつける、ぼろくそに言う)

▼ He reprimanded me. 叱責 (懲戒) された。(お役所的なかたい言い方)

▼ He chastised me. 叱責された。(文語体、chastise = ~を厳しく非難する・ひどくしかる、~をせっかんする)

また、"Someone take 人 to task; be taken to task by someone" という便利なイディオムもあり、次のような場面で用いられている。

I was taken to task by the supervisor for not arriving at work on time. 遅刻したので上司に絞られた。

他にもいろんな言い方があるだろうが、とりあえず「誰それを叱る・誰それに叱られた」

ときたら、”scold someone”、”be scolded by someone”という中学英語で惰性的に翻訳してしまっている人には、上述した例文を参考して、自然な英語での言い方・書き方の習得に少しでも役立てていただければ幸いである。

これにて翻訳一口メモ 34 回目終わり。